

## 平成 21 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成 22 年 3 月 29 日（月）午後 2 時 30 分－ 午後 5 時

場 所：京都大学宇治研究所本館 S 棟 5 階 防災研究所大会議室（D-1518）

出席者（敬称略）：森田（代理：宮沢）、丸井、飯塚、寶、加賀屋、海野、桑野、水谷、  
矢田部、守田、間瀬、吉田、盛川、西上、野上、藤吉、牛山、真木、  
牧、岡田、井口

配付資料：

- ・ 平成 21 年度第 1 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録
- ・ 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿・出席者名簿
- ・ 地区部会報告
  - 資料 3－1 北海道地区、3－2 東北地区、3－3 関東地区、
  - 3－4 中部地区、3－5 関西地区、3－6 西部地区
- ・ 自然災害DBについて
- ・ 突発災害発生直後の調査研究の立ち上げについての提案
- ・ 平成 21 年度予算執行状況
- ・ 平成 21 年度自然災害研究協議会活動報告
- ・ 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿（任期入り）
- ・ 重点推進型共同研究企画提案書（自然災害研究協議会）
- ・ ホームページの活用について

配付冊子：

D P R I Newsletter No.55

防災科学テキスト ー自然災害の仕組みを知るー

1. 京都大学防災研究所 岡田 憲夫 所長の挨拶があった。
2. 前回議事録の確認を行った。以下の修正あり。
  - 項目 6. の「東北地区の会誌は 300 部作成」を「東北地区の会誌は 100 部作成」
3. 出席者（代理）一覧表の、牧委員の欠席を出席に変更する。
4. 平成 21 年度活動報告
  - (1) 地区部会報告
    - ・ 北海道地区のセンター長の交代（上田教授に交代）。
    - ・ 東北地区会長が植松教授に交代する。
    - ・ 関東地区の市民科学オープンフォーラムに 200 名参加があった。
    - ・ 中部地区は、水防災セミナーを実施している。
    - ・ 関西地区は中国、四国、近畿と跨っているが、それらの地域との調整を図っている。
    - ・ 西部地区の研究発表会と会報の報告があった。

## (2) データベース担当報告

- ・牧委員より、データ入力状況とアクセス状況の報告があった。

### 2. 突発災害調査研究について

添付資料の案に関して審議した。議論のポイントは以下の通りである。

- ・迅速性が必要である。
- ・関係者へメールする。
- ・関係者は、防災研究をしている研究組織を想定する。
- ・組織から漏れている研究者がいれば、個人メールも活用する。
- ・この案は、風水害だけか。
- ・地震関係も入れるなら、修正が必要である。
- ・まずは、各地区の防災研究組織のネットワークを整理する。
- ・次回までに地区ごとに調べる。
- ・内容については、突発災害担当、議長、総務等で再検討する。
- ・早急に集めなければならないデータは何かも決めておくのが良い。

### 3. 平成 21 年度予算執行状況について

- ・総務担当より報告があった。

### 4. 平成 21 年度自然災害研究協議会活動報告について

- ・総務担当より報告があった。

### 5. 委員の交代について

- ・配布資料で、野上委員の所属が東京大学になっているのを、東京工業大学に修正する。
- ・平成 22 年 4 月から、海野委員から植松康教授に交替する。
- ・西部地区は、廣岡俊彦教授に交替する。
- ・その他の委員は継続となる。

### 6. 平成 22 年度京都大学防災研究所共同研究への申請について (資料 9)

西上委員および盛川委員から説明があった。議論のポイントは以下の通りである。2. の突発災害調査研究にも関連する。

- ・初動調査は防災フォーラムと重複するのでは。
- ・試行によって仕組みを改良していく。
- ・だれがメンバーを決定するのか。
- ・突発災害調査の調査団と異なるメンバーになるか、同じか。
- ・具体的にどうするかは今後詰めていく。
- ・ネットワークをどのように構築するかもテーマになる。

### 7. ホームページの活用について

広報担当委員から説明があった。

- ・誰を対象とするか。
- ・どれだけのアクセスがあるか。

- ・ 地区での情報を載せる。
- ・ 従来のページは役目を終えている。
- ・ 記事投稿にモチベーションを与える方法は何か。

#### 8. その他

協議会ででた意見を以下にまとめる（項目 2. 6. 7. と重複あり）。

- ・ 防災関連の全国アカデミック機関の一覧表を整備する。
- ・ 組織間の連絡体制（網）を整える。
- ・ 連絡網としての個人の扱い方はどうか。以前は個人会員の整備が重要であった。